

Serenade (小夜曲)

(社) 埼玉県放射線技師会

副会長 堀江好一



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、お健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。日頃より当会に対する暖かいご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

~~~~~  
 今年は埼放技創立60周年を迎える年だ。そんなことを考えていたら、50周年記念式典を行うために右往左往していた10年前の自分を思い出した。

～夜に向かって雪が降り積もると  
 悲しみがそっと胸にこみ上げる  
 涙で心の灯を消して  
 通り過ぎてゆく季節を見ていた～  
 (桑田佳祐/白い恋人達より)

この楽曲を使ったコココーラのCMが流れて、もう10年が経とうとしている。

そして我々にとっては、今年、新たな10年がスタートする。キーワードはやはり“公益社団法人”なのだろうと思う。公益社団法人として新たな組織に生まれ変わることが、向こう10年間でおそらく最大の出来事になるのではないだろうか。

平成21年3月に公益社団法人を目指して委員会を発足し、もう少しで2年が経過する。当初の予定では平成23年4月の移行認定(公益社団法人として認められること)を目指していたが、昨年、主務官庁との折り合いがつかず、仕切り直しを余儀なくされた。

～今宵、涙こらえて奏でる愛のSerenade  
 今も忘れない恋の歌  
 せめてもう一度だけこの出発(たびだち)をCelebrate…～

今、まさに私たち執行部はSerenade(小夜曲)を奏でている。お城に向かって恋の歌を奏で、お姫様にプロポーズしているのだ。とは言っても我々にとってのお姫様とは一般市民のことだが。

「私たちは皆さまのお役に立つことができます。どうかこの熱い気持ちを受け止めてください！」

お姫様が微笑んでお城から出てきて、見事ゴールインできれば私たちの勝ち。

「うるさい!おまえのような輩が娘に近づこうとするなど100年早いわあ!!」と王様に追放されたら負けというところか。

現在まで47都道府県の技師会で、めでたくゴールインできたのは広島県放射線技師会(平成22年4月)だけであり、各県ともかなりご苦労されている様子だ。ちなみに埼玉県では移行の対象となる法人約430法人中、ゴールインできたのはたったの4法人に過ぎない。これは全国的に見ても東京を除けば似たような傾向で、この有り様では期限までにゴールインできる法人はほんの一握りになりかねない状況だ。

王様は誰か?ということはご想像にお任せしたまま、たとえ話を終わりにして、公益社団法人に移行するにあたり、公益法人の在り方について改めて考えてみたい。

私が技師会に入会した動機は単純明快「みんなが入っているから」だった。初めは日々の仕事をこなすのが精一杯で、会誌も読んだり読まなかったり。当時の上司から促され(半強制的に?)勉強会などに出たり、地区の役員をしたりしているうちに、自分の職場以外の知り合いが増えた。次第に仲間と呼べるような関係ができて、いろいろなことを勉強させてもらった。それは私だけでなく多くの会員が経験しているのではないかと思う。こういった関係はとても楽しい。しかし、「楽しい」で完結してしまっただけでは、技師会は共益的集団に過ぎない。地位向上や待遇改善運動なども同じこと。自分たちの利益を追求することは共益と分類される。したがって、技師会を通じて得た様々な情報を駆使し、医療の質を向上させ、一般市民に間接的、直接的に還元することで初めて「公益」と認められる。

これからは「自利利他(じりりた)」という精神が大切になると思う。「他人に尽くせば巡り巡って自分に利益が戻ってくる」とも解釈できるが、本来、自利利他の精神とは、他人に尽くすことが自分の幸福だと感じることだそう。

患者さんから「ありがとう」と微笑んでもらったら、どんな技師でも少しは幸福感を感じられるだろう。一般市民から「ありがとう」と言ってもらえるように会員全員で努力していこう。その先に公益社団法人埼玉県放射線技師会がある。